

【 一般撮影 部門】

● 一般撮影検査とは？

放射線検査の中で、もっとも行われる検査で、X線という放射線を検査の目的とする部分に照射して、写真を撮影する検査です。“レントゲン撮影”、“X線撮影”、“単純撮影”と呼ばれることもあり、こちらの名前のほうが聞き覚えのある方が多いかもしれません。

一般撮影は、簡便でかつCTやMRIなどの検査に比べて撮影時間も短いため、緊急時などに全体像をすばやく知る必要があるときにも、非常に重要な検査です。

● 装置（使用機器）

当院では、一般撮影室は3部屋あり、用途によって使い分けています。

一般撮影の中で最も撮影数の多い胸部立位専用の部屋が1部屋と、どの部位にも対応可能な撮影室が2部屋用意されています。日により待ち時間に差がありますが、可能な限り患者様の待ち時間が短縮されるように配慮しています。

2019年2月に管球システムの更新を行い、それに伴って設備も新しく整えました。

新しい管球システムとFPD(Flat Panel Detector：平面検出器)により、さらに少ない線量で検査を行うことが可能になりました。高精細で感度も高いため、今まで写り込むことのなかったカップ付きの下着やゴムの締め付け、束ねた髪の毛も写るようになりましたので、患者さんの更衣・脱衣のご理解とご協力の方をよろしくお願いいたします。

《2番撮影室（胸部立位専用）》

胸部撮影装置

FPD式デジタル画像システム(立位)

[Canon製 CXDI 401G (FPD)]

X線発生装置

[島津製 UD150 B-40]

立位台

[大林製作所製]



オートボイスシステム

[オリオン・ラドセーフメディカル(株)製 MEDICAL VOICE MV2009-5]

新しくオートボイスが導入されました。これによって、日本語を含めた5ヶ国語(日本語・英語・中国語・ポルトガル語・韓国語)に対応が可能になりました。

また、自動音声に伴って、患者様の見える位置に文字も表示されるようになったため、より呼吸合図がしやすくなり検査に最適な吸気での撮影が可能となりました。



《3番・5番撮影室》

骨部撮影装置

FPD 式デジタル画像システム(立位)

[Canon 製 CXDI 401G(立位)]

FPD 式デジタル画像システム(臥位)

[Canon 製 CXDI 401G-wireless(臥位)]

無線 FPD 式デジタル画像システム

[Canon 製 CXDI 701G-wireless / CXDI 801G-wireless]



X線発生装置

[島津製作所製 UD150 B-40]

立位台・寝台

[大林製作所製]

オートポジショニング機構が導入されました。

従来までは、手動で行っていた管球設定を自動で行うことで、画像の標準化が図れるだけでなく、患者さんと離れる時間が少なくなり、検査の安全性と効率性を高められると考えています。

また、寝台に障害陰影とならないマットを敷きました。患者さんの身体的負担が減り、従来よりも痛みが少なく検査を受けていただけるようになりました。

《その他》

ポータブル式 X 線発生装置 (2 台)

[島津製作所製 MobileDaRt Evolution]

無線 FPD 式デジタル画像システム

[[Canon 製 CXDI 70G-wireless]

移動式外科用イメージ

[GE 製 OEC9900 Elite] / [島津製作所製 OPESCOPE ACTENO]

● 撮影方法・検査の流れ

1. 21 番で受付をし、一般撮影室の中待合の椅子に腰掛けてお待ちください。準備ができましたら、放射線技師が受付番号でお呼びします。
2. ボタンや金属類が撮影範囲内に無いかを確認します。カップ付きの下着やゴムの締め付けなども写ります。必要な場合は、検査着等に替えていただきます。
3. 検査内容や撮影部位によって、立った状態や座った状態、撮影専用台に寝て撮影を行います。何回か体位を変えながら撮影を行うことがあります。
正しい位置での撮影を行うため、お体に触れることもあります。お体に触れる際は、必ずお声掛けいたします。
撮影する際に、写真がぶれないよう息止めの合図を行うことがあります。
これらは、正確な診断を行える写真を撮るために必要なことですので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。
4. 撮影後、画像に障害陰影となる異物の写り込みやブレなどが無いことを確認して検査終了となります。

● 被ばく線量

当院の一般撮影検査における被ばく線量は以下ようになります。

各撮影部位	当院 (mGy)	DRLs2015 (mGy)
胸部立位(正面)	0.13	0.3
腹部臥位(正面)	1.73	3.0
腰椎(正面)	1.67	4.0
股関節(正面)	2.04	4.0
グースマン法	3.70	6.0

※DRLs2015: 医療被曝の線量指標を示した診断参考レベル

当院の被ばく線量(平均)は指標値以下ですが、診断可能な画質は担保されています。